

事業計画書

事業名	原地区初の生活介護サービス「わ・く・ら」の啓蒙活動
実施場所	第1～4回：原地区センター 第5回：生活介護事業所 わ・く・ら
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2019年 4月 1日 ～ 2020年 3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

障がいがあり、常に介護等の支援が必要な方が利用する生活介護事業所わ・く・らが、2020年4月原地区に開所する。そのわ・く・らの活動を知らせるため、「わ・くらぶ」を全5回開催する。わ・く・らに通所希望を考えている方に向けて、歌・ゲームなどのレクリエーションや制作活動などを通して、家庭では味わえない時間を提供する。地域のボランティアを募り、地域の方も参加できる。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか(事業を行うきっかけ(地域の問題点や課題、社会背景など)や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか)を記載して下さい。

沼津市には、障がいがあり常に介護等の支援が必要な方が利用する生活介護施設が不足している。市西部地区は、沼津特別支援学校はあっても、次の受け皿となる生活介護施設がない。長年、何とかならないかと思いつけてきた。私達が出来ることをしようという思いに変わり、2018年、NPO法人を立ち上げた。2020年、生活介護事業所「わ・く・ら」を開所する。この事業は生活介護施設を必要とする障がいのある方とその保護者、及び地域住民を対象に生活介護施設への理解を深めてもらい、生活介護事業所わ・く・らの存在を広く周知することが目的である。

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
4月5日(金)	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 第1回わ・くらぶ実施打ち合わせ
9日(火)	案内チラシ作成 参加者・ボランティア募集(沼津特別支援学校・東部特別支援学校・HP・手をつなぐ育成会・社会福祉協議会)
5月10日(金)	参加者一人ひとりへの配慮確認・準備
18日(土)	第1回わ・くらぶ開催(場所:原地区センター)
6月11日(火)	反省会・第2回わ・くらぶ実施打ち合わせ 案内チラシ作成 参加者・ボランティア募集(沼津特別支援学校・東部特別支援学校・HP・手をつなぐ育成会・社会福祉協議会)
7月5日(金)	参加者一人ひとりへの配慮確認・準備
7月20日(土)	第2回わ・くらぶ開催(場所:原地区センター)
8月29日(木)	反省会・第3回わ・くらぶ実施打ち合わせ 案内チラシ作成 参加者・ボランティア募集(沼津特別支援学校・東部特別支援学校・HP・

	手をつなぐ育成会・社会福祉協議会)
9月6日(金)	参加者一人ひとりへの配慮確認・準備
9月21日(土)	第3回わ・くらぶ開催(場所:原地区センター)
"	反省会・第4回わ・くらぶ実施打ち合わせ 案内チラシ作成
10月8日(火)	参加者・ボランティア募集(沼津特別支援学校・東部特別支援学校・HP・ 手をつなぐ育成会・社会福祉協議会)
11月1日(金)	参加者一人ひとりへの配慮確認・準備
11月16日(土)	第4回わ・くらぶ開催(場所:原地区センター)
"	反省会
1月18日(土)	第5回わ・くらぶ実施打ち合わせ
"	案内チラシ・パンフレット作成
2月8日(土)	案内配布
3月7日(土)	準備
21日(土)	第5回わ・くらぶ開催(場所:生活介護事業所 わ・く・ら)・反省会

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。			
<ul style="list-style-type: none"> 参加した障がいのある方が、活動を楽しむ。自分が出来ることを楽しみ充実感を持つ。いろいろな人とふれあう中で社会性を広げる。次回への期待感を持つ。 保護者と意見交換をすることで、保護者の不安を軽減させる。 ボランティアの方が、障がいのある方に接することで、よりよい対応の仕方を理解する。 回を重ねることで、安心感や係わりのできた方々との信頼関係を築いていく。 			
成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 ・障がいのある方延べ65名以上 ・ボランティア延べ35名以上	指標の検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。 ・全5回のわ・くらぶ参加人数の集計 ・参加者の意思確認 ・保護者、ボランティアへのアンケート

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

公益性 ・ 必要性	※公益性:地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性:事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> 学校教育を終えてからの受け皿となる場所の必要性。 障がいのある方が安心して通える場所を作る。 保護者に将来の不安を軽減させる。 わ・くらぶに参加することで活動内容がわかり、安心して活動できる。 今後、生活介護事業所わ・く・らへ活動を継続させるために必要である。
地域性	※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによりどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> 沼津市西部に生活介護施設がない。故に、わ・く・らを原に作る。わ・くらぶは、原地域のコミュニティー活動の中心になっている地区センターを利用する。 地域の方にも参加する場を提供し、地域の人材を生かした活動を考える。
先導性	※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> NPO法人を立ち上げ生活介護事業を始めるのは、沼津市では初めてのこと。 発起人が特別支援学校経験者達で、幼児から高校までの障がい者教育に係わ

	<p>ってきたため、障がいのある方の将来像が想定でき、それを踏まえて個に合った支援の方法や活動が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者とも、理解協力しやすい立場にある。
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性:活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性:本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などにどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> わ・く・らぶの活動が、生活介護事業所「わ・く・ら」に繋がっていく。 わ・く・らぶで築いた人脈も、わ・く・らに結び付く。 回を重ねることで、地域住民の協力を得たり、交流を図ったりしやすくなる。
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性:事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性:各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催案内をHP、沼津特別支援学校、手をつなぐ育成会に配布する。沼津特別支援学校には、第1回第2回は高等部1・2年、第3回は高等部1・2年と中学部3年と順次対象を広げ、参加者一人ひとりの掌握に無理がないように段階を踏んで人数を増やす。参加者一人ひとりの実態を踏まえ、実態に即した活動を考える。 社会福祉協議会を通じてボランティアを募集し、地域からのスタッフも集める。
<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> わ・く・らという名称には、利用者の皆様と共に、わくわくしたくらし、輪のあるくらし、和やかなくらし、わあっと心が動くくらしをしたい。そんな施設を作りたいという私たちの思いがこめられている。沼津市に住む生活介護施設を探している方に、わ・く・らの存在を伝えたい。障がいのある方に、家庭以外の居場所が必要である。

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

次年度に、わ・く・らに入所希望の方に向けて、引き続き、わ・く・らぶを開催する。